

希望 21

ありふれたことだけど
かけがえのない
希望がここにある

平和・自治・共生

People's Hope for 21 century

1997年 2月号

No.17

1部 200円 年間購読 3000円

神奈川県相模原市上鶴間2973-3-110

TEL & FAX 0427-40-4794

郵便振替：00100-1-97125 希望21



希望をうみだすために

あれはダメ、これはダメといった話は、もうこれ以上したくありません。そんな状況から抜け出すために、私たちは「希望の21世紀」を結成しました。どんなに小さくみえることからでも、私たち自身で何ができるのかを模索し実践するためにこそ、ここに集まりました。

政治家は官僚の専横をあげつらい、官僚は政治家の無能をなげくと言った、いいかげんうんざりするような堂々巡り。その中で、政治はますます民主主義から遠ざかり、今や国会内は改憲派が圧倒的多数を占めるにいたっています。一方、人々の暮らしに即していえば、地方の産業、中小企業等、その生活はますます苦しいものになってきています。このところ多くの政治家が語りはじめている福祉問題にしても、例えばお年寄り、何か金のかかるだけのやっかいもののように扱われ、同時進行で、悪徳「福祉」産業の食い物にされている実態が衆目の目に晒されました。

「かつては、曲がりなりにも革新勢力というものがあり、官僚に対するチェックの機能を果たしていた。それがなくなっていることが今の政治の不幸だ」と。これはあろうことか、厚生省が批判の矛先に挙げられたさなかに、自民党がいったことです。

かつての革新勢力にもっとがんばってほしいと思っている心ある人々は、数多くいるでしょ

う。それらの声は、本当にその通りだと思えます。しかし、問題はそういうことなのか。今、しっかり考えてみたいと思います。

あまりにも多くの事柄が、特に議論と政治的判断・選択の必要な事柄が、その議論の届かない場所で決定されて行きます。

たとえば沖縄の問題は、日米安保、あるいは安全保障をめぐる政治的選択はもちろんのこと、これまでの沖縄と「本土」との関係も含めて、私たち一人ひとりが考え、議論しなければならない、まさに政治の問題でした。しかし、あれこれの対応策はともかく、今なお国会でそのことが真剣に議論されるということはありません。ほぼ一年をかけて議論され、判断が下されたのは、日米両政府が設置した、ひとにぎりのスタッフからなる日米合同の「沖縄に関する特別行動委員会」であり、日米安保協議会の席でした。沖縄の人々は、そこで下された判断と、政治的権利を剥奪されたまま、生身で向き合わざるを得ません。

一連の市場開放策の中で、地方の産業が置かれた立場も、これと少しも変わるものではありません。重要な決定は、自分たちが選んだ議員の議論の中で決まるのではなく、通商交渉の中で議論され、「政治」は、それを後追いするにすぎません。悪政と言うよりも、

政治そのものが、今、奪われていっています。グローバリズムと呼ばれる自体の進行のなかで、そうした傾向はますます強くなっていきます。

なお続けられている官僚パッシングは、事態を改善して行くようにはとても思われません。「天下り」、官民一体の構造的「体質」への批判は、より良心的な企業や地方産業の公的部門への参入を促す方向へは働かず、地域社会で実際に生きている人々の政治的規制などますます効かない多国籍化した資本のビジネスチャンス

を拡大していきます。やり場のない怒り、憤りは、生きることに追われ、あるいは政治的には無力感となって、この日本社会を覆っています。もちろんこれは、ある一面にすぎません。でもそれは私たちが直視しなければならない私たちの社会の掛値のない現実だと思えます。この撞着から、私達はどうかすれば抜け出す事が出来るのか。私達の政治的権利を、どう回復するのか。その方途を、私達は今、真剣に模索しなければならぬときでしょう。地域から政治を起こすとは、私達がもう一度生きる事、発言する事への自信を取り戻す闘いであると思えます。

平和・自治・共生に向けて

—新しい政治勢力と選挙について—

この間、多くの人々が選挙からそっぽを向くのは、あるいは当然の事のようにも思えます。議会は、とりわけ国政レベルではますます重要な政治的決定の場にあずかれないような、あるいは様々な利害調整の場としても役割を果たせないようなものに成り変わってしまっています。まして節操のない政治家達。小選挙区制度でますますひどくなっていますが、選挙期間中政治活動が禁止されるというまったく逆立ちした日本の選挙制度…。

それでもなお、私達が見誤ってはならない事は、私達が選挙によって選んだ人々が今の日本の政治を、皮肉を込めていえば「政治の不在」を牛耳っているという、紛れもない事実です。それともう一つ、やり場のない憤りを抱えた圧倒的多数の人々にとって、投票行為は、自分の発言を政治の場に投じる事が出来る唯一ともいえるような場です。もちろんこうした現状は、もっと多様で、また生活に密着した政治実現の場を奪われているという否定的な現状の反映か

も知れません。しかし、こうした現状を打ち破るためにも、今ここから出発するしかないのだと思えます。

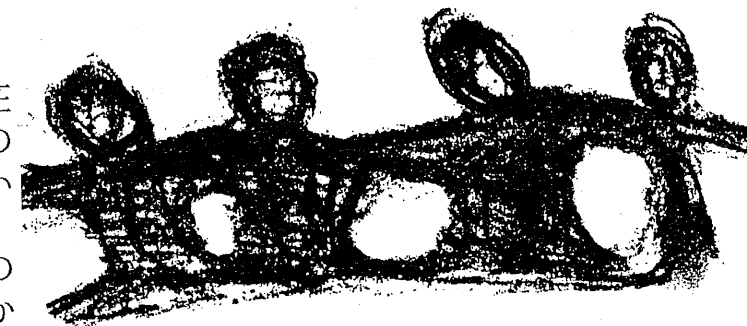
その上で、今私達に求められているのは、議会すら茅の外であるような現実を抗して、私達一人一人の政治的権利を回復させる事を自覚的に共通の目標としてしっかりとたてきり、そのための新しい政治の形を作り出す努力を、共同の仕事として出発させる事だと思えます。各地で模索されているローカルパーティー等の試みは地域への「後退」ではなくこの努力への答の一つであるはずです。

私達が政治的な力、自治の力の回復を求めたいのは、それが今、人が人間らしく生きるための方途だからです。その意味で、今、政治的な無力感をいちばん実感しているのは、自身も含めて低迷する革新勢力と呼ばれてきた人達よりも、生きるために、これまで必死で自民党を支えてきた当の人たちかも知れません。あるいは選挙の場を通して、私達が真剣に対話をはじめたいのは、この圧倒的多数の人々のはずです。それは「左翼」が自分たちのつくってきた世界の殻を自覚的に破っていく事につながるでしょう。それは本当に必要な事です。

私たちの多くは、これまで様々な領域や課題で社会的な運動を続けてきました。先の自民党流に言えば、私たちは今のままでも十分に健全な！批判勢力です。対話とは何なのか、その姿が形をとって見えているわけではありません。まずはじめられるのは、これ以上我慢しない事、生きるための知恵を、ともに模索する事からでしょうか。

私たちは、健全な批判勢力に甘んじはしません。これは自分自身への宣言であると同時に、心ある全ての人々への、私たちの呼びかけです。

(津田光太郎・希望21 京都)



民間活力導入の名の下に

—— 東京都の公務員にかけられている攻撃 ——

「行革・規制緩和」という錦の旗を押したてて、いま、都の賃金システムが大きく変わろうとろうとしています。その本質はいわゆる成績主義・業績評価の導入による差別賃金体系の確立です。行政サイドは、組合の交渉の場でも常々「公務員の仕事意識は甘い、民間と同じように、よく仕事をやったものが高賃金を得るのは当然」と民間活力の導入を口にしてきました。これまでの「同一職種・同一賃金」の原則は崩れ、今、労働現場には競争意識がはびこり、一つの共同作業として多くの労働者が共に担ってきた「仕事」自体が個人主義的なものになりつつあります。

今回は、その実態を教育現場から報告してもらいます。

教職員組合の賃金闘争

鈴木孝夫 (東京都障害児学校労働組合 副委員長)

1996年の東京都職員の給与は、人事委員会 勧告完全実施したが、3年連続0%台の平均0.99%(4,226円)の低額Upだった。都内企業の春闘の妥結が平均2.9%であり都職員は定期昇級分1.5%を加えた2.5%と比較しても低く抑えられている。加えて、勤勉手当・特別昇級に成績主義を導入しようとしている。「成績主義」については後述するとして、給与が低く抑えられている構図について述べたいと思う。

低く抑えられる給与～官民比較方式

公務員の給与を決める比較対象企業を「100人以上の企業」として、人事委員会も勧告をしている。ところが、大都市東京・大企業が集中し世界一生活費がかかる地域であるという現状を考えると、都で働く職員の生活実体・生活実感を性格に反映しているのか？ 私たちは比較基準値を「当面500人以上将来的には1,000人以上」を要求している。

単純な比較だが、一時金は1,000人以上の事業所では年間5.66ヶ月程度、100人以上1,000人以下の事業所では4.38ヶ月となっている。

能力主義の導入：

特別昇級の改悪・管理職の勤勉手当にラツ付け

教職員には、定期昇級とは別に特別昇級というものがある。これが極めて曖昧な基準でしかない。各職場で勤務成績の極めて良好な者10%をAランク、勤務成績の特に良好な者20%をBランクとして「出張で殆ど学校にいない校長」が推薦し、教育長が30%を20%に削るといふもの。Aランクは6ヶ月昇級が早まり、Bランクは

3ヶ月昇級が早まる。「教職員の士気の高揚、公務員能率の向上及び成績主義の推進を図ること」が目的らしい。94年に「業績評価」を使用するように改正されたが、現場では校長が推薦する時点で実質的に骨抜きにする闘いを今も続けている。更に、都は96年度中にわずか2%の教職員を対象に12ヶ月昇級が早まる制度を導入しようとしている。教諭に先駆けて管理職の勤勉手当に成績率が導入された。5段階に序列づけ、全員から勤勉手当の1%を抜き最下位ランクから5%抜いて足した額を原資とし、上位2ランクに加算するというもの。都はこれを教諭にも導入しようとしている。都のいうところの「能力主義的人事管理」の一層の徹底に向けての動きである。しかし、障害児学校のように複数で同じ生徒に関わる教育実践を行っている仕事に特定の個人を優遇する賃金の差別化は可能だろうか。個人の優遇=志気高揚の発想は余りにも情けない。

こうした基本給を抑え、一部のものに「業績評価」として手当を厚くする賃金システムは、少しずつ教職員の意識・感性を競争主義的なものに変えつつある。そしてそれが教育の質をさらに悪化させていくことは必然であろう。能力主義で喘ぐ子ども達と関わる教師に能力主義を持ち込み「教育の自由化」を説く矛盾はナンセンス以外のなにものでもない。

賃金の差別化を通じた教師の「序列」化がもたらす教育現場の問題については今後、報告していきたい。

いま、この人に聞きたい!

チョウバク
趙博さん

趙博(愛称「バギ」)とは何者か?

180cm・100kg・柔道2段、40才の大男。「ニッポンで何やねん?」と問いながら人間の解放と共生を闘い取りうと呼びかける「セレブレーションコンサート」の主催者にしてミュージシャン、河合塾ベテラン英語講師にしてギター漫談師。

生まれ育ちは大阪の、釜ヶ崎控えし西成区。暴動騒乱横に見て、教師しばいた中学時代、ブイブイいわした高校時代。どうい因果かロシア語求め、そして神戸は外大時代。サヨクとマルクスに出会い、民族に会い、音楽に出会う。

そう、彼は在日2世の韓国人、そして大阪を愛する「大阪人」。朝鮮語・英語に関西弁、ロックも民族音楽もパソコンも自在にこなし、日本各地で、韓国、カナダ、あちこちで、歌い語り闘うマルチな表現者&プロデューサー。

創生期の生野民族文化祭で活動していた、このゴソイ男に出会って13年、「セレコン」の呼び掛けに共鳴・支援して3年、オイラの確信を言わしてもらおう。

「ソウルフルな革命家、それが趙博(チョウバク)だ。出会うべし!」(希望21大阪・戸田)



革命・音楽・民族

現代ニッポンへのアジテート

運動・民族との出会い

75年に入学して、何で学生運動をやり出したかいうと、学費値上げ阻止のために、各クラスの代議員を選出しようということになって、誰もやらないから俺が立候補したのがきっかけ。大学に入るまではずっと右翼やった。三島由紀夫なんかの「義拳」に感動してたし、特攻隊はカッコイイ、思ってた。東大の安田譲堂も、連赤の浅間山荘もテレビで見てたけど、ごっつう醒めてた。「これはアカン、勝たれへんわ」と。なんせ、向こうはチャカもドスも持ってるわけや。セイガクはあかんたれや」と思ってた。で、ずっと学生運動は嫌いやった。入学した75年には、11・22事件(*徐兄弟事件の後に韓国で起こった、在日韓国人学生の大量逮捕・投獄事件。「学園浸透スパイ団事件」として大々的に焦点化した。)があった。これが一つの転機やったね。初めて個人的に集会とデモに行ったな。自分の知り合いも韓国でパクられてたし。

留学同(*朝鮮総連の学生組織)に入ったのは大学4年の時。それまで民族的な自覚もなかった。3年の秋にデモでパクられたんやけど、刑事がなぜか俺の正体知っとんねん。「おまえ、実は韓国人やろ。強制送還したろか、親戚に総連の奴おるやろ!」とかね。俺は隠しとったから、通名の西山を名乗ってたんや。「何でこいつが知っとんねん、やばい。」思て、それから反省してん。当時の日本の学生運動のなかでは、事情に詳しい奴はおらんかった。指導部も俺が韓国籍って

いうのはどういうことなのか、解ってなかった。どうしたらええかも知らんかった。中には「帰化したらどうや」という同志もおった、無邪気にな。それまでは「反弾圧」という点で本名を隠さなあかと位置づけただけど、パクられて初めて「本名を堂々と名乗ろう」と考えを変えた。

朝鮮語は留学同に入ってから本格的に、ほんま、一生懸命やったなあ。けど、民族主義や主体思想とかに對して、ごっつう違和感があった。袂を分かったのは何ともない理由で、学習会の時に、お決まりの相互批判をやるんやけど、「君はよく勉強してるが一つ思想的欠点がある。シーパンはいて朝鮮革命はできない。」と指導者の奴に言われたんがきっかけ。それまで鬱積したモンもあったんやけど、「オノレが着てるスーツは何じゃい、このイギリス帝国主義者が!俺は自分に民族意識がないからここで言葉や歴史を勉強してる。お前らは民族意識はあるけど階級意識はゼロじゃ。」と言って、そいつをブン殴ってやめた。すっきりしたね。

80年の光州事件の時は大学院生やったけど、週2、3回デモがあって、その時はデモに行くしかなかった。どこの主催でも、毎回行ってたね。何で俺は大学院みたいな道を選んだんやという想いもあったけど、その時期に読んだ文献は、今の俺の表現活動に一脈通じてるところがかなりある。当時は、韓国語も読めるようになってたしね。文化運動が韓国の闘争でどれだけの役割果たしたか、そういうことを在日の民族団体は皆目わかってない。何か飾りもので利用主義に

しかく文化>を考えてない。俺が発見したく法則>があるねんけど、「民族、民族、言う奴ほど民族的でない!」いうこっちゃ。この頃、韓国へ行って思うのは、芸術人に対する尊敬と、テメエについての自尊の念が全然違う言う点。目線とか、接し方、芸術人自身の暮らし方がね、まるっきり日本・「在日」とチャウ。

ライブコンサート IN ソウル

去年の12月15日にソウルへ行った時は、機動隊に妨害されてね。漢陽大学の「オリンピック・スタジアム」で7,000人の観衆を目の前にして歌った。ライブの後の打ち上げで、30年獄中に入ってた爺ちゃんとかと一緒に飲んだんやけど、もう、ど〜んと感じるものがあった。「どこで韓国語学んだんや?」から始まって、70年分の話延々とするわけやから、「生きた現代史講義」やんか。すごく親しく接してくれた。政治活動家やったらその場に行けなかったはず。俺、ミュージシャンでよかった、とほんまに思ったよ。

表現者として出会い続けたい

俺は、ホンマは労働運動やりたかったんや。河合塾で労働組合作るのが夢やねんけど、残念ながらまだそういう状況じゃない。河合塾の工工とは、「いいかげんさ」。何年か前に、「教育情報産業」として生き残るといふ大方針を経営者側は立てた。それも実は、俺ら講師の知恵や。例えば教室で授業やってるだけでなく、通信衛星使おう、とかね。そんな緻密な戦略は、経営者側から出て来ない。組合は無いけど、「経営者側にも儲けさせたる、そのかわり俺らはこういうオモロイことしたいねん」と取り引きするわけや。そこは「労資協調」なんや。けど、このごろはオモロイ奴が少なくなつたんよ。12年前やったら「どうせ俺は浪人生や」という開き直りの意識があったけど、今は「私は河合塾へ行ってます」と自慢する奴がおるもん。講師の中にもな。メジャー意識になつてる。救い難いで、ほんま。最初の数年間は、若い奴に本当に触発されたけど、ここ2、3年特にひどい。何の話しても反応がないねん。俺が年とったんが一番の原因やろうけど..。<おたく>は、まだ話が成立する。100人いたらその中できらっと光る奴は、2、3人やなあ。

今の若い子について皆が色々言うけどね、奴らは単に無防備なだけやと俺は思う。「他者」がおらんや。小さい頃から怒られたこともない、何かに立ち向かったこともない。何となく生きてこれた。そういう子や親が9割やな。

近代以前に、完全に「退化」してる。かといって「前近代の人智」も持ち合わせてない。

そんな人間に進化や進歩なんて不可能や。こんな「ふぬけ」相手に何が「国際化」じゃ、笑わしてくれらな。ワシらは「お客さん、毎度!」で、商売するだけでんがな..。まあ、大多数の子が俺らよりチャンネルをギョウサン持ってるはずなんやけど、それが自分の<生き方の根>に位置してないね。根腐れしてる。逆に、非常に物わかりがええ奴らなのかもしれん。だとすれば、同時に<ファシズム予備軍>やね、完全に。しゃあから、オウム的事件もな、あれは特異でも特殊でもないねん。

俺はできるなら音楽一本でメシ食いたいねんけど、予備校と両方やってるのがええのかもしれん。ただ、「どちらもやってます」言うて、それに甘えたらあかんや、肝に銘じてる。ええかっこして言うたら、「どちらも表現者として、他者と出会い続けたい」ちゆうことかな..。それはチョークを持ってても、ギターを持ってても、<自分から発信する>ということでは、同じ生業{なりわい}やからね。

「記録;井本(希望21大阪)・編集協力;趙博」



「これからは中年として断固としていきま」と髪を切ったバギ氏

趙博の主なライブ予定

- 3月 1日 寝屋川市内 某所
- 3月 24日 池田市 市民文化会館

*3月中旬頃、九州にて数カ所のライブを計画中

—上記の詳しい情報、ライブ要請、CD申し込みなどは下記事務所まで。

OFFICE 38
〒537 大阪市東成区中道3-14-15YMCA 4F
TEL:06-977-2766
FAX:06-977-3101

希望西から東から

日野市長選への取り組みを通じて得た苦い経験

希望21・三多摩 三浦 富喜夫

80年代に入って東京都内の革新自治体が次々と保守に奪回される流れの中にありましたが、今日まで日野市は残り少ない革新市政として24年間の歴史があります。今年4月に行われる市長選をめぐっては、マスコミ各社とも、競ってこれまでにない取材攻勢が行われています。今回は、この市長選への取り組み報告に紙面をお借りします。

初めてのチャレンジ、

『憲法を市政に生かす日野市民懇談会』

この懇談会は、前回4年前の市長選直後から憲法講座を継続的に開催してきた知識人グループによる呼びかけによって、昨年11月に正式に発足しました。その趣旨は、「次回市長選について、政策づくりや候補者選を、多くの市民の参加の下で進める」と言うことです。この方式自体は、当然日野では初めての試みで、多くの市民が願い待ち望んでいたことでしょう。過去の市長選の歴史は、政策や候補者選定などは密室の政党間の調整で決定され、本来主人公であるべき市民は、あれやこれやと大忙しの選挙に「猫の手」として駆り出されるだけでした。

25年前、当時の保守市政に対して、民社党・公明党・社会党・共産党の政党間で共闘が成立し、現在の市政を誕生させました。それが4年前の前回の選挙では、当時の社会党も共産党との共闘を解除するという流れになり、その段階から共産党と護憲派市民の共同の模索が始まったと言ってよいでしょう。

懇談会での主要な議論

市民懇談会の大きな目的は大きく二つありました。一つは、基本政策の柱(案)を作

り出して行くこと、もう一つは、候補者を選出すること。基本政策の柱(案)について言えば、総論には大枠賛成ではあるが、各論になると対立点を残しており、議論の随所にそのシコリが相互の不信感として解消されていない現状です。候補者選では、今回護憲派市民グループの提案でもあった公募性が採用されたものの、候補者選出委員会の設置をめぐっては、その委員会の公開性と委員の構成をめぐって意見が2分しました。最終的には、懇談会の結束と選挙までの残された時間を大義名分として、組織力を持っている勢力が押し切る形になりました。その結果、「選出委員会の審議・議論は非公開」、「候補者の選出は選出委員会が責任をもって行う」という内容となりました。

市民の知らない世界が今もなお!

懇談会の「決定」を旗印として、選出委員会による候補者選定作業が進行しますが、これと平行して、懇談会の動きとは別に、「現職7期目に意欲!」などと真実味のある巷のウワサ、マスコミの書き立てなどもあって、懇談会選出委員会の中での激しい議論と駆け引きが、まさに密室の中で繰り返されたと聞きます。

もつれにもつれた候補者の一本化の動きは、今年1月末まで続き、ひとまず候補者が決定され、その部分だけを取ってみると一段落したと言えるでしょう。しかし、その審議過程は今もなお選出委員の「守秘義務」として口口よろしく市民に公開されることはありません。ある市民は「かつての政党間の密室協議が『選出委員会』に置き換えられただけ」と失望感を隠しません。

無党派市民の中で再度の議論が浮上

市民グループの中の一つである市民会議は、昨年夏以降の議論を経て、市民懇談会に参加し、護憲派の統一の推進に相応しい候補者を推薦してきましたが、結果は、前段で触れた経過の中で、懇談会としての候補者に押し上げることが出来ませんでした。1月末の候補者決定以降は、具体的に選挙戦への取り組み方の判断が迫られています。こうした状況を迎えて、無党派市民の間では、こんな議論が出ています。「政党と市民の共同と言った場合の相互の対等・平等な関係が成立していない。懇談会・同選出委員会は一部の勢力のアン・フェアなやり方が横行しており、信頼できない。いかなる運動でも、信頼関係が基礎であり、選挙への拘わりは保留したい」。そしてもう一方では、「指摘する事実認識は一致しているが、その問題をどうしたら将来的に解決していけるのかは、政党に期待しているだけでは展望がない。すぐさま問題を解決するのは難しいが、市民の側から解決方法を創り出していこう。今回の選挙にあたっては、自民党が過去2回の分裂の総括のもとに、候補者を一本化していることもあって、保守に市政を明け渡さない為にも市民懇談会の結束を優先したい。」という意見があります。

この議論の最終調整はその大半は今後の議

論の結果に委ねられることとなりますが、何はともあれ、私の思いは、今回の実践経験が必ず今後の運動にプラスの材料になると確信しています。

私の個人的な意見

まず、政党から政治的に自立した市民が政党と同席し、対等・平等な関係、民主主義を懇談会内部から徹底しようという志を示した事に私は共感します。それは、従来の政党中心の政治からの変革を求める一つの流れと思えたからです。市民自治を求める新しい流れが、この日野の地でも、確実に萌芽していると言って過言では無いかも知れません。

ただ、反面私たち市民運動の弱点もまた見過ごしてはいけないと思います。それは、市民運動は縦型の運動では無いために、組織を持つ勢力との関係の作り方には、ほとんどその蓄積もなく、その方法を議論し一致を作るだけでも膨大な時間を要するという事です。今回の様に、短期戦を強いられた場合は、今回の日野のような事態が避けられないということです。この事は、自治を求める市民運動の側の抱える葛藤とも言えると思います。政治の作り替えは、こうした現状を一つ一つ変革するプロセスを抜きにしては実現しないように思えてなりません。いみじくも、保守系の市議が日野の市長選の現状をこう語っています。「これまでは保守の分裂の時代、しかし、これからは『革新』の分裂の時代」と。私たちは何に向かって、何を目標に運動しつつづけているのか、選挙戦の中でも常々自問自答を心がけたい。



編集後記

毎日新聞の連載「福祉を食う」-虐待される障害者-で、水戸の段ボール加工会社や東京の製瓶工場や大阪の障害者通所施設での知的障害者への虐待を報じている。反響もかなりあって、障害者やお年寄りといった弱者を虐待する社会を何とかなくっちゃと感じている人は少なくないと、ほっとしたけれど、現実はなかなか難しい。養護学校で生徒たちの実習先や就労先を探すために電話を掛けても、「今、間に合っています。」(何がだ!)「ゆっくり教える余裕がないから」(そんな-)掛けても掛けても95%は断われ、ようやく探した仕事も、実習だけならいいけど、雇うのはできない。といわれることがほとんど。大卒者でも就労が厳しい時代に仕方がないのかなと、弱気になることもしばしば。憲法では、社会権の中に生存権・労働基本権・教育を受ける権利を保証しているのに、現実には、社会福祉の切り捨てが進み、目に見えないところで社会的な弱者の生存自体がおびやかされているのだ!

人間らしく生きたいよね。(ちかこ)
<訂正>

No.16、1月号の「橋本行革に対峙する地域の闘いをつくっていこう!」の中で2P右段落29行目「所得税10%」は「消費税10%」の間違いでした。お詫びして訂正いたします。

希望の21世紀宣言

私たちは、現在のモノ中心の社会を、人間が人間らしく生きることのできる社会へとつくり変えていくことをめざします。

人間らしい社会—人と人が平等に、ともに助け合って、人間が自然の一部として本来の姿で生きることのできる社会—を実現することこそが、人々の希望です。私たちはそのために、あらゆる領域で民主主義を徹底し、民主主義をはばむものに対してたたかいます。

私たちは、世界に戦争と大国主義の不平等をもたらす憲法改悪を許しません。9条の理念の実態を日本から作っていくことによって世界の平和と民主主義の実現に貢献していきます。国と国とは対等平等の関係にあり、人間らしく生きることが豊かさの尺度に、人々のあり方を人々が決め、どこの誰も本当に武力を必要としない国際社会の実現こそが、平和の実現です。

私たちは、地域からの国の進路、世界のあり方を決定する政治的な力を作っていきます。そのために、私たちの意志、知恵や力を結集し、たがいの経験に学び合い、信頼を築き合いながら、自治の実現をめざします。何かに頼ることなく広範な人々とともに変革の力を作り、その統一を推進することを自らの役割とします。

世界の現実を変えること—それは私たち自身のあり方、運動のあり方を変えることなくしては実現できません。私たちは自らを変えあう中で現実を変革していきます。本音を出し合い、あらゆる困難をともに克服し、成功や喜びを、そして失敗や悲しみをも共有し、助け合っただけの輪を広げ、その中に新しい社会を準備していきます。

人間らしい社会の実現をめざし、世界の平和と民主主義を求める人々とともに、希望の実現に向けて進みます。

1部200円 定期購読をよろしくお願ひします! 年間購読料3000円(送料込み)

郵便振替: 00100-1-97125 『希望の21世紀』

月刊『希望の21世紀』●創刊17号●1997年2月16日
発行●「希望の21世紀」全国委員会 編集●希望三多摩
連絡先●希望21・三多摩

東京都日野市多摩平6-20公住219-5 三浦方 TEL&FAX 0425-82-2407

●希望21・京都

京都府京都市中京区丸太町通柳馬場西入る鍵屋町75東洋ビル3F COM京都気付
TEL 075-212-2455 FAX 075-212-2456

●希望21・未来はみんなでつくり隊

東京都杉並区高円寺南2-39-15 光荘203 菅原方
TEL 03-3310-4553 FAX 03-3223-0468

●希望21・神戸

兵庫県神戸市灘区森後町2-1-7 斎原ビル302
TEL&FAX 078-843-7626

●希望21・大島

東京都大島町元町字小清水273尾形方 TEL&FAX 04992-2-4708

●希望・大阪

大阪府守口市外島町6西1-1709井本方 TEL&FAX 06-997-2062

希望
21
century